

学生による学生支援(2)

対話を通じたピア・サポーター向け研修の改善とその効果

京都産業大学 教学センター 中本 陵介

教学センター 課長補佐 中原 正樹



はじめに

京都産業大学(以下、本学)では、入学前から卒業に至るまで継続したきめ細かな修学支援が展開できるよう、教員・職員・保護者・大学・社会などが密接に連携し、支援していく「つなぎプロジェクト」と呼ばれる修学支援策を展開している。その中で、ピア・サポーター制度を導入し、ピア・サポーター(以下、サポーター)が教学センター職員と共に学生への支援を行っている。本稿では、サポーターの研修に焦点をあて、「職員とサポーター」および「サポーター同士」の対話が、どのような効果を学生支援にもたらしたかを報告する。

ピア・サポーターの活動

本学のピア・サポート活動は、「身近な先輩学生が相談にのることによる新入生の不安解消」および「サポーター自身の成長」を目的に二〇〇九年度にスタートした。二〇一五年十月現在四一名のサポーターが在籍し、無償で活動している。主な活動としては、各学期の履修登録時に行われる履修相談会や修学サポート、友達づくりイベントの開催などが挙げられる。本学は毎年約三〇〇〇名の新生を迎えるが、その中で履修相談会に延べ一五〇〇名、友達作りイベントに約一五〇名が参加するなど、学内でもサポーターの存在は幅広く認知されている。サポーターには新入生の履修や大学生活など、多種多様な相談にのるため、豊富な知識や適切な対応を身に付けることが必要とされている。

研修における「これまで」の課題

本学では、サポーターが新入生のよき先輩となることを期待して、新規採用サポーター向けの研修に力を入れている。発足当初は、職員が講師となり、十名程度の新規サポーターに「個人情報取扱い」「人権理解」などの研修を行っていた。しかし、二〇一二年度より、SNSの利用に絡む個人情報の取扱いや各学部のカリキュラムなど、サポーターに求められる研修量の増加に伴い、研修中に居眠り

りをしてしまうサポーターが増え、内容を十分に理解できていないといった問題が生まれた。その背景として、団体の立ち上げが学生ではなく教学センター主導であったため、「研修は職員がやるもの」という意識がサポーター内にあったことが挙げられる。結果としてサポーターが受け身の姿勢となり、研修後の活動においても職員の指示待ちになるなど、団体の運営にも影響を及ぼしていた。

対話を通じた研修プログラムの改善

サポーターが受け身の姿勢から脱却し、主体的に活動ができるよう二〇一三年度から二〇一四年度にかけて、対話をキーワードとした研修の設計・内容の見直しに着手した。なお、ここでは「対話」を「職員や先輩サポーターなどの立場に関係なく、フラットな関係で率直に話し合い、より良いものを共に創っていくこと」と捉える。

まず、一つめは職員とサポーターの対話である。研修の設計段階からサポーターを加え、「授業ではない研修にどうすれば熱中できる

か」、「どのような点を工夫すべきか」といった視点から議論を行い、大幅な修正を行った。例えば、「履修相談会」の振り返りは、これまでは先輩サポーターのみで行っていたが、「職員や新規サポーターにも参加してもらいたい」フィードバックや新しい意見をもらいたいとのサポーターによる提案から、研修プログラムに取り入れることになった。実際に研修会では、職員、先輩、新規サポーターの立場に関係なく議論を行い、「職員とピア・サポ

ター間の連携の取り方」や「学生が相談しやすい窓口のあり方」などの改善策をまとめることができた。

二つめは、研修におけるサポーター同士の対話の促進である。具体的には、①学生同士の対話を促すアクティブラーニングを導入するとともに②先輩サポーターを講師として研修に組み入れた。①に関しては、これまで職員による知識伝達型の研修を行っていたが、グループワークを多く取り入れた双方向型の研修に変更した。例えば、「ピア・サポーターの心構え」では、「『簡単な授業科目だけを教えてほしい』といった相談にはどのように対応すればよいか」等、答えのない問いについて、サポーター同士で対話し、グループで発表する方式を取り入れた。前述の例は実際に先輩サポーターが回答に困った質問を取り上げており、様々な考え方や回答が飛びかっ

た。また、②に関しては、先輩サポーターを講師役とし、新規サポーターに研修内容をよりわかりやすく伝えるための改善を行った。例えば、職員の講義形式で行っていた「個人情報の取扱い」研修を、「個人情報の取扱いとSNS(Twitter・Facebook)の使い方について」と改め、先輩サポーターが体験談を話すことで、難しいテーマを身近な話題として感じてもらえるよう工夫した。

以上の取り組みの結果、研修中に居眠りをするサポーターはいなくなり、理解度を測るアンケートからも良い結果を得られた。研修プログラムの改善前・改善後の対比、および研修アンケートの結果を表1、表2にまとめている。

表1 改善前(2012年以前)研修プログラム

研修テーマ
個人情報
人権理解
学生相談室の利用

表2 改善後研修プログラム・研修アンケート結果

研修テーマ	サポーター講師	グループワーク	評点
履修相談会の反省		●	-
個人情報とSNSの利用	●	●	3.6
ピア・サポーターの心構え		●	3.6
修学サポート活動	●	●	3.5
人権理解		●	3.3
障害への基礎理解			3.3
学生相談室の利用			3.3
リーダーシップとコミュニケーション		●	3.3
ピアの歴史と他大学のピア	●	●	3.1

・評点は研修アンケートより抜粋(有効回答数:18)
 ・評点1(あまり理解できなかった)~4(とてもよく理解できた)の4件法で回答
 ・サポーター講師、グループワーク欄における●は、それぞれの実施を表す。

学生支援における効果

研修プログラムの最終目標は、「学生への支援に活かすこと」であるが、学生支援における効果を数値で示すことは容易ではない。しかし、延べ一五〇〇名が参加した二〇一五年度履修相談会では、その一部を垣間見ることができた。履修相談会の参加者へ行った満足度調査アンケートの結果は図1のとおりである。アンケート結果は一定の満足度を得られていることを示しているが、それは、相談者が殺到する中でも、サポーターが自ら考え、



履修相談会の様子

質問:ピア・サポーターに相談し、疑問や悩みは解決しましたか

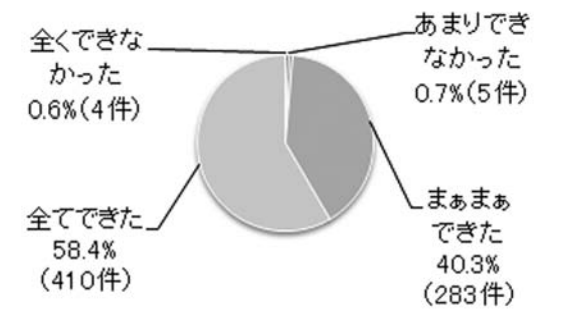


図1 履修相談会満足度調査アンケート (有効回答数: 702件)

相談者一人一人のために行動できている成果だといえる。

新たな支援活動の実施

サポーターは、二〇一四年度に「修学サポート」と呼ばれる新たな支援活動を試行的に実施した。「修学サポート」とは、サポーターが職員と共に対象学生の学業に関する領域(学力や学業にまつわる不安・コミュニケーションの苦手意識など)のサポートを行う活動を指す。例えば、マクロ経済学や工業簿記の分野において、特定の演習問題の解法について一緒に考えるといった支援が修学サポートの例として挙げられる。

対象は、教学センター職員と面談を行っている成績不振学生の中で、支援を希望する学生としている。サポーターは相手にわかりやすく伝える「発信力」や相手の意見を聞く「傾聴力」など、研修で得たスキルや経験を活かして、学生支援に取り組んでいる。二〇

一四年度の活動実績は延べ十件と事例は少ないが、支援を受けた学生の感想やアンケート結果は良好であり、今後も拡大していきたい(中本・垂門 2015)。

さらなる発展を目指して

以上のように、研修において対話を取り入れた結果、サポーターの主体性を生み出し、「履修相談会での満足度」や「修学サポートの新規実施」など、学生支援活動の発展につながった。今後、成長したサポーターが支援を受ける学生との「対話」を通じて、気づきや学びを与え、最終的にその成果が(ピア・サポーターを含む)全学生の学習意欲や大学生活の満足度につながっていくと期待している。

次回は授業や催事などでグループワークなどの円滑な進行をサポートする学生ファシリテータを紹介する。

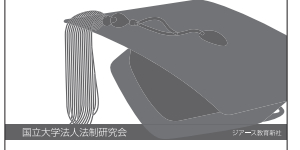
参考文献

中本隆介、垂門伸幸(2015)。「面談を通して把握した低単位学生の特徴と学業関連領域における支援策実践例―ピア・サポーターを活用した修学支援―」高等教育フォーラム(5)、教育支援研究開発センター、pp. 147-157

好評発売中!!

Kommentar 国立大学法人法 コンメンタール

National
University
Corporation
Act



国立大学法人法制研究会 編著
A5判/710頁
定価 本体 4,700円+税

大学の自律性を踏まえた国立大学法人の特殊性を中心に、基本的なロジックと国会答弁等のエビデンスを端的かつ骨太に解説。「文部科学教育通信」誌に平成二十年八月号から平成二十三年一月号まで計五五回連載されたものを、今回改めて全体的に見直し、新たに概説や参考資料等を加え、資料としての充実と便宜を図った。

特色GPのすべて 大学教育改革の起動 (JUA選書第14巻)

編川正吉 小笠原正明 編/財団法人大学基準協会 監修
A5判/464頁 4,095円+税

質保証時代の高等教育(上) 経営・政策編

山本真一 著
B6判/332頁 2,300円+税

質保証時代の高等教育(下) 教育・研究編

山本真一 著
B6判/332頁 2,300円+税

データで見る 大学財政の基礎知識 3訂版

合田隆史 杉野剛 藤原誠 著
A5判/188頁 1,800円+税

障害学生支援入門

―誰もが輝くキャンパスを―

鳥山由子 竹田一則 編
B5判/170頁 1,800円+税

テキスト教育制度・教育法規「改訂版」
霜鳥秋則 著
A5判/278頁 2,200円+税